

平成29年度学校評価及び学校関係者評価結果

※ 達成状況の評価基準は、A:よくできている B:ややできている C:ややできていない D:できていない

	分野	評価項目・取り組み内容	達成状況	学校の取り組み状況	改善方策	学校関係者評価
学習指導	1	①キャリア発達段階表を活用した系統的な学習内容 ②学校、家庭、社会生活に結びついた体験活動 ③障害の重度・重複化や就労支援への多様な学びの機会 ④地域資源(施設・人材等)を活用した教育の推進	B	・キャリア発達段階表は、詳細すぎて活用されにくい状況である。 ・貯金学習や校外学習等、計画的に体験活動を実施している。 ・肢体不自由等の障害に対する学習上の配慮や就労に向けた現場実習等を積極的にやっている。 ・メンテナンス講座等外部人材の活用や校外での体験や実習に依り組んでいる。	・キャリア発達段階表を精選する等改善し、来年度の活用の仕方を活用する。 ・体験学習を重視しながら、行事の精選を検討する。 ・肢体不自由等の障害のある児童生徒に対する教育課程の編成を検討する。 ・系統的な計画が必要である。	・多岐に渡る創造的な取り組みを評価する。 ・キャリア発達段階表を基にした系統的な教育計画が期待される。 ・卒業後の生活について考えさせる取り組みは重要である。貯金だけでなく、給与や障害者基礎年金等の管理を含めて幅広い視点から個々の児童生徒に必要なニーズに絞って指導を続けてほしい。 ・アセスメントを実施していない学校もある中、しっかりと取り組んでいるのでありがたい。 ・アセスメントは、発達検査だけでなく、教職員による日頃の観察が重要であるので、「みる目」(観察力)を高めてもらいたい。 ・個別の教育支援計画と個別の指導計画の系統性も必要である。
	2	①正確な実態把握に基づいた目標設定と指導・支援方法 ②わかりやすい教室環境、教材・教具等の工夫 ③児童生徒が主体的・対話的な深い学習の充実 ④評価基準による評価と児童生徒への振り返り ⑤個別の指導計画の共通理解とPDCAサイクルの見直し	B	・発達検査や行動観察等を基に個別の教育支援計画を作成しているが、まだ十分な実態把握ができていない部分がある。 ・視覚支援を活用し、また個々に応じた教材を工夫している。 ・作業学習等、振り返りによる生徒の主体的な発表を行っている。 ・振り返りシート等を活用して評価を行い、次の授業につなげている。 ・前期、後期と個別の指導計画を作成し、見直しを行っている。	・実態把握の書式を各学部で統一し、引き継いでいく。 ・教材や教具の共有化を図る。 ・生徒同士の対話を増やす学習内容に工夫する。 ・評価を見える化する。 ・年間指導計画との整合性を図る。	
	3	①自立活動の時間での実態把握に基づいた学習集団の編成 ②6区分の優先順位に基づいた指導	B	・発達検査や行動観察等による実態把握をもとに、各児童生徒において最も重点的に取り組むべき課題を明らかにし、課題別グループ編成を主とした学習形態で取り組んでいる。	・新たな実態把握をもとに、各児童生徒の優先的に取り組む課題が適切かどうかの見直しを行う。	
児童生徒支援	4	①学年、学部の移行支援、情報交換の充実 ②個別の教育支援計画における合理的配慮の提供 ③支援会議等による共通理解の推進	B	・学部間の引き継ぎを年度末に行っている。 ・今年度から個別の教育支援計画と個別の指導計画に、合理的配慮を書く枠を設けて取り組んでいる。 ・必要な児童生徒には支援会議を随時開催し、共通理解に努めている。また、関係機関と連携した会議も開催している。	・新年度も、過去の記録等を参考にし必要に応じて連絡会ができる機会を設ける。 ・保護者と合意形成を図る機会を十分に設け、具体的な支援策を提示する。 ・校内委員会で、具体的な実施案が提示できるよう事前打ち合わせを充実させる。	・移行支援の意味を考え、学部間の話し合いや支援シートの活用を充実すればよい。 ・支援会議の充実を図り、共通理解を深めることが大切である。 ・教職員が生活指導や進路指導に頑張れば頑張るほど、児童生徒にストレスがかかることもあるので気をつけて欲しい。 ・児童生徒がすぎであり、また児童生徒から好かれる、信頼される接し方を習得した教職員を目指して欲しい。
	5	①障害や心情の変化、家庭環境・生育歴等に配慮した支援 ②自ら考え、選択し、行動する力や態度を養う支援 ③社会の決まりやルールの遵守、様々な規律の習得 ④いじめ等の未然防止及び対応	B	障害特性と生徒の特徴を理解して、叱るより生徒がどうすれば良いかがわかる指導を工夫している。生徒会活動を主体的に進めている。規則やマナーを理解して好ましい行動を取り、良好な対人関係を築く指導を行っている。いじめアンケートを実施していじめ防止に努めている。	・校内研修や生徒情報の共有を図る。 ・生徒会行事での役割分担を果たす。 ・具体的なルールとマナーの指導を徹底する。 ・対人関係の指導といじめアンケートの実施により早期発見・対応に備える。	・社会の決まりやルール、マナーは重要な要素であり、基本的な力を育成してほしい。 ・進路指導については、生徒、保護者、教職員の三者で十分に話し合ってもらいたい。 ・十分な指導を行いながら、問題行動等による理由で企業就労できなかったことは残念である。進路指導だけでなく、生活指導・支援も含めた総合的な指導・支援の必要性を再確認する機会となった。 ・企業や事業所等は、「働きたい気持ち」「働き続ける気持ち」をいちはん求めているので、働く意欲や気持ちの指導をお願いする。
	6	①生徒が、主体的に選択・決定できる情報提供及び相談体制の充実 ②「働く意欲」や「働く力」を培うキャリア発達の支援の促進 ③現場実習の事前・事後学習による目標設定と振り返り	B	①福祉事業所ガイドブックの発行、保護者施設見学会の実施 ②卒業生や企業担当者による講演会の実施 ③学年による事前学習・結団式の実施、進路担当者による実習の事後面談の実施	・情報提供の充実させる。 ・適切な外部人材の活用を行い授業の充実を図る。 ・実習先決定のためのアセスメントの充実させる。また、実習ノートを作成し活用をは図る。	・福祉機関でも利用者の意思決定支援を行っているので、「児童生徒本人がどう考えているのか」と児童生徒の力をつけていって欲しい。 ・生徒が自己選択・決定し、納得できて進路先に移行することが大事であり、保護者や教職員の影響が強いのでその専門性を高めてほしい。

教育課題	7	健康・安全教育	①健康観察による早期発見・対応や健康教育の充実 ②授業や学校給食等における食育の充実 ③安心安全な学校生活、登下校指導、交通安全指導	B	・感染症等の早期発見するため、朝の健康観察、集計に取り組んだ。 ・教職員や家庭への健康状態の共通理解を図った。 ・歯と口の健康週間に「カミカミ献立」を、ひょうご食育習慣に「目の愛護デー献立」を提供した。 ・給食週間に、郷土料理や兵庫、姫路の地場産物を使った給食を提供した。 ・警察による交通安全教室や登下校時の指導、校門での安全立ち番などを行っている。	・関係者との連携及び情報提供に引き続き努める。 ・引き続き、食育を意識した献立の提供を行う。 ・今年度から実施した交通安全教室の充実を図る。	・視覚支援ツールの活用や情報教育は、自立活動や合理的配慮の観点から進めるとよい。 ・交流及び共同学習は、非常に適切に取り組まれているので、交流学校の児童生徒や教職員、保護者、地域等に障害理解や相互理解等の意識面での効果を期待する。 ・学校間交流は、企業も手本としたい。交流により学校内の理解や相互理解を積み上げていく必要がある。しかし、直接交流のみでは、十分な理解が進まないで、事前・事後学習やその間の学習や手紙のやり取り等の間接交流が効果があるのでさらに充実させてほしい。
	8	防災教育	①地震等防災避難訓練や防災マニュアル等による学校防災体制の整備・充実	B	・年間に想定異なる4度の避難訓練を実施。警察や消防等、外部機関の協力を得て行い、訓練のポイントや改善点等のアドバイスを受けている。		
	9	情報教育	①視覚支援ツールやICTの効果的な活用と工夫	B	・児童生徒個々の実態に応じた視覚支援ツールを作成し、工夫しながら授業に取り組んでいる。 ・ICT機器活用のための環境整備と機器やアプリケーション等の利用の拡充に努めた。	・校内LANの無線化と機器間の連携をとる。	
	10	人権教育	①交流校や地域、関係機関等への人権啓発の推進 ②教職員自らの人権感覚の醸成	B	・校内人権研修会を実施し、障害者差別について深く考えたとともに、合理的配慮の実践について意見交換を行った。	地域での研修を校内の教職員に広めていく取り組みが必要である。	・居住地交流は、中学部ぐらい年齢が上がると参加する生徒が減る傾向にあるので、その課題対応に取り組んでほしい。
	11	交流及び共同学習	①居住地学校との交流の充実 ②学校間の交流及び共同学習の充実 ③地域や部活動等その他の交流の充実	B	・居住地校交流は、事前打ち合わせを大事にし、直接交流や間接交流等参加しやすい形態で行っている。担当教職員同士の打ち合わせや反省も充実してきた。 ・交流学校と十分な打ち合わせの上、定期的を実施している。今年度から、中学部が交流中学校での障害理解の授業に協力し、生徒からアンケートを取った。 ・校内で、学部間交流について兄弟クラスを編成して、給食交流や手紙の交換等行い、相互から好評を得ている。	・相手校の児童生徒の障害理解の事前指導を充実させるための情報交換等が必要である。 ・交流校の生徒アンケート結果を受けて改善を図る。障害理解の授業等の取り組みが他の学部に広がるよう情報提供する。 ・学部間交流の取組内容を共有できる機会を設ける。	・学校内の学部間交流はとてもよい効果があるので、さらに交流を深めてもらいたい。年齢の低い児童生徒にとって「お兄ちゃん・お姉ちゃん」の姿はよいモデルとなる。また、先輩が、後輩の世話をするのも自己有用感が育ってよい。
学校運営等	12	教職員の専門性	①教育課題対応や専門性向上に役立つ校内研修の推進 ②外部人材を活用した研究授業等の計画及び推進 ③自己研修の研鑽と研修成果の共有と還元 ④専門性向上のための5つの検討課題への取組の努力	B	・夏季休業中を中心に全体研修、各校務部主催の研修会を実施した。 ・研究授業を実施し、外部講師から指導助言を受けた。 ・課題別研究グループを編成して、研修会を実施した。	・ニーズにあった研修会の実施と精選化 ・テーマ設定の妥当性 ・各学部間の交流	
	13	センター的機能	①早期からの教育相談体制の充実 ②地域や学校園の支援や研修の提供	B	・乳幼児から教育相談を実施している。早期教育との連携も密にしており、小学校への移行支援を重視して取り組んでいる。 ・来校相談156件、巡回学校園61件、巡回相談271件、研修会25件(1月30日現在)を行った。	・早期からの教育相談について、関係機関への広報を推進する。 ・市町教育委員会との連携を更に密に行う。神崎郡の教育支援会の参加を探る。	・教職員の専門性では、就労に関するアセスメントを重視する必要がある。 ・教職員の専門性のスキル向上の推移を見える化をすれば、効果的である。 ・保護者アンケートでは、学校の取組に高い評価が出ている。今後も、学校と保護者の連携を密にとってほしい。
	14	家庭・地域との連携	①保護者への連絡、相談、情報交換等 ②学校HP、学校だより等の情報発信 ③オープンスクール、学校行事等の公開	B	・保護者には、毎日の連絡帳のやりとりや必要に応じた電話連絡、週2回程度の学年通信の発行、その他の通信発行等で連絡をとっている。年度当初の家庭訪問や学期末の懇談会等で相談や情報交換に取り組んでいる。 ・学校HPの更新頻度が高まり、各学部や部活動の様子を知らせている。 ・5月と10月の年2回、計4日間オープンスクールを実施し、のべ約400人が参加した。「ひめよう祭」は多くの地域の方や福祉事業所等が参加している。小中運動会、高等部体育祭、授業参観により保護者等に公開している。	・障害のある子どもを養育する保護者の困り感に沿った連絡、相談、情報交換に努めるよう周知する。 ・学校HP等について、PTA理事会等を通してさらに広報する。 ・当日の時間割、内容等をできるだけ早く保護者にお知らせできるようにしたい。 ・参加者アンケートを参考して改善を進める。	・学校の教育目標を教職員が共通理解できるとよい。

15	校務運営	①学校教育目標の共通理解と連携・協働して、機動的に対応 ②若手教職員の育成や教職員間の学び合い、相互支援関係 ③勤務時間の適正化とハラスメント防止	B ・職員会議や校内授業研究等で、学部間の「連結」した取り組みについて周知している。 ・校内初任者研修において、複数の教職員が専門性を活かして指導にあたっている。課題別研修グループを13班編成して、年数回に渡り情報交換等を行った。 ・「業務のユニバーサルデザイン」を推進している。定時退勤やノー会議デー等周知している。衛生委員会が月1回開催に努め、風通しのよい職場づくりに努めている。	・研究授業発表会や通信等の内容を充実させ、引き続き情報発信を行い、共有化を図る。 ・課題別研修グループの成果について見える化を図る。校外研修等の報告や資料を閲覧できるよう工夫する。 ・業務負担の偏重がないように、業務分担を調整する。教職員相互の「助け合い精神」を周知する。	
----	------	---	---	--	--

1 学校評価の実施方法
 昨年度の意見を参考にして、高等部生徒(本校Ⅱコースと分教室)と交流(学校間交流と居住地学校交流)の相手学校、センター的機能の支援先の学校にアンケートを実施してよかった。

2 総合的な学校関係者評価
 ・全体的によくできている。児童生徒一人一人の実態やその支援の取り組みを把握して、その評価を見える化し、共有することが大切である。
 ・保護者や交流等の学校のアンケートの達成状況はAが多いが、教職員アンケートは全てBである。よく取り組んでいるので、教職員自身の自己評価でAが複数出るように努めてほしい。
 ・新学習指導要領等の新しい取り組みもあるが、教育課程等、学校独自のマネジメントに努めてもらいたい。